

今日は肺炎予防、特に肺炎球菌ワクチンについてお話しします。65歳から接種できる肺炎球菌ワクチンで定期接種化されているものに、ニューモバックスNP（23価肺炎球菌莢膜ポリサッカライドワクチン）があるのをご存知でしょうか？

定期接種ですので接種費用の助成があり、2014年10月1



徳島大学病院感染制御部

東 桃代 副部長

日から開始されました。定期接種開始以前の全国の推定累積接種率は約20%でした。16年3月時点では、約43%に上昇はしているものの米国の70%と比べ、まだ十分とは言えません。

今健康なのでワクチン接種をためらっている方おられますか？健康寿命を延ばすには持病を持っている方はもちろんですが、健康な方に肺炎予防に積極的に取り組んでいただきたいと日ごろから考え、診療を行っています。

近年、日本では肺炎が脳卒中を追い抜いて全死亡原因の第3位となっています。また肺炎に

よる死亡者の約95%は65歳以上と言われています。肺炎球菌は唾液などを通じて飛沫感染します。肺炎では肺炎球菌の分離頻度が最も高く、また血液や髄膜に侵入する侵襲性肺炎球菌感染症に至れば、死亡・後遺症の割合が高くなります。肺炎を予防するには、細菌やウイルスが入り込まないようにすること、体の抵抗力を高めること、そして予防接種が重要です。

また肺炎球菌ワクチンには、高齢者に新たに使用することが承認された「プレナー13（沈降13価肺炎球菌結合型ワクチン）」もあります。ニューモバックスNPとの連続接種による免疫力の向上がこれまでの海外のデータより期待され、当院でも2種類のワクチンの連続接種を実施しています。

日本は超高齢社会を迎え、皆がより健康で長生きすることが、自分自身にとってはもちろんのこと社会全体にも、医療経済的にも重要視されています。「健康寿命を延ばそう！」を合言葉に肺炎予防に共に努めていきましょう。

肺炎球菌ワクチンとは

体にも、医療経済的にも重要視されています。「健康寿命を延ばそう！」を合言葉に肺炎予防に共に努めていきましょう。